

「京都サマープログラム 2016（東アジア）」を京都府と共同実施しました。（2016年7月31日～8月13日）

大学間学生交流協定校である北京大学、香港中文大学、国立台湾大学、延世大学より選抜された25名の学生を短期交流学生として受け入れ、短期留学プログラム「京都サマープログラム 2016（東アジア）」を実施しました。国際高等教育院が主催し、京都府庁、京都府国際センターおよびアジア研究教育ユニットが連携して行ったものです。

本プログラムは東アジアのトップレベルの学生が、日本人学生と交流しながら、本学の自由の学風および先端研究に触れ、日本の政治・国際関係、文化・伝統、歴史、社会、環境・農業問題などへの理解を深めて、将来的にアジアの平和と安定を促進し、日本への長期留学を志すようになることを目的として企画されました。また、本学学生には、留学生と共に講義を受講し、さらにはプログラムの一部を自らが企画することを通して、国際理解の促進、企画運営能力の向上が期待されています

東アジアの各大学からは多様な専門分野を持つ学部学生・修士課程学生が参加しました。プログラムの前半では、山内修一 京都府副知事を表敬訪問し、京都府職員から「京都府総合計画『明日の京都』による府政マネジメント」について説明を受けた後、京都府庁内の京都府議会の議場見学を行いました。

本学では、松沢哲郎 高等研究院教授による「チンパンジーが教えてくれた人間の心」、近藤直 農学研究科教授による「食料・環境・生命に関わる技術と研究の現状と将来展望」、ニールス ファンステーンパール 教育学研究科准教授による「京都の歴史と文化」、湯川志貴子 国際高等教育院准教授による「日本古典文学に見る日本人の美意識」、奈良岡聰智 法学研究科教授による「空間と政治：近代日本における政治家の別荘」などの講義を受講しました。各レベルの日本語講座も提供されました。プログラムの後半には、日本文化および京都をより理解してもらうため、七条甘春堂での和菓子づくり体験、サントリービール工場見学、株式会社ナベルへ企業見学、南丹地域フィールドトリップでの京野菜収穫、調理体験、美山かやぶきの里での散策や餅つきなど府内各地域の視察や見学を行いました。

京都大学からは10名以上の学生がサポーターとして積極的に参加しました。学生たちは東アジアの大学生とともに講義を受講し、プログラムを体験し、きずなを深めました。このプログラムは留学生に限らず、サポーターとして参加した京都大学生にとっても異文化理解能力を養い、外国語コミュニケーション能力を高め、国際性を涵養する貴重な体験となりました。

参加した短期交流学生は、この短期間においても、日本及び京大に対する理解をそれぞれが深め、その印象や現地でしか得られない情報を、東アジア各国に発信しています。その中で、今後日本への大学院留学を検討し始めた学生が多数出てきています。今後もこのようなプログラムを通して、

将来のリーダーを担う学生間の交流がより一層盛んになり、日本と東アジアの相互理解を深めていくことが期待されます。



京都府山内副知事への表敬訪問



松沢哲郎教授の講義の様子



餅つき



発表の様子



修了式